

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000234		
法人名	社会福祉法人 一誠福祉会		
事業所名	グループホームくらら(Aユニット)		
所在地	愛知県豊橋市川崎町216-2		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000234-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、私たちは、入居者の皆さんがいつまでも笑顔で暮らせる家になるようにお手伝いします。 2、私たちは、入居者の皆さんの生活習慣を大切にしながら、3S(Smile,Speed,Smart)の精神で接していきます。 3、私たちは、入居者の皆さんの尊厳をいつまでも大切にしていきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度のホームの新たな取り組みとして、毎日の食事の提供方法の変更があげられる。職員が利用者の好みや嗜好等にも配慮しながらメニューを考えながら、日常的に利用者と一緒に買い出しに出かけて調理を行う方式に変更している。買い物を通じた外出の機会が増えたことや季節の旬の食材が食事内容に加えられたこと等、利用者の楽しみの機会にもつながっている。運営母体が、複数の介護事業所を運営している社会福祉法人でもあることで、関連事業所で行事が行われる際には、ホームからも利用者と一緒に参加の機会をつくり、職員間の交流が行われている。また、事業所の建物内に多くの方が利用することができる共用空間が確保されている利点を活かしながら、定期的な習字教室やカフェが行われており、習字教室については地域の方も参加しており、地域の方との交流にもつながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各ユニットに提示しており、定期的に朝礼で再確認し、理念に沿って行えるよう心掛けている。	運営法人が基本理念と掲げているノーマライゼーションをホームの支援の基本と考えている。支援の具体的な項目も掲げられている。また、ホームで独自の取り組みが始められており、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域主催の夏祭りに職員と共に参加したり、地域の先生に依頼し習字教室を月1回開催している。散歩時にはゴミ拾いをしている。	地域の方との交流については、併設の特養とも連携しながら行われているが、ホームからも地域の行事に参加する等の取り組みが行われている。また、事業所内のスペースを活用した毎月の習字教室を行っており、地域の方との交流の機会にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域での地震や津波等、防災の避難所になっている。地域の公民館祭りで区民の作品の展示場としてエントランスを提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族(代表)入居者(代表)自治会長、地域包括支援センター担当者、民生委員会長に参加してもらい、2ヶ月に1度開催している。施設の行事や写真等を紹介し、意見交換を行なっている。	会議は、併設の特養との合同で開催され、出席者に事業所全体の現状を知ってもらう機会にもつなげている。また、会議に複数の地域の方の参加が得られており、会議を通じて事業所の運営につながる等、情報交換等が行われている。	家族の出席については、限られた範囲の方の参加となっているため、ホームからの継続した家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村の研修、会議などにはできる限り参加し、連絡は密に取るようにしている。	行政との関わりについては、事業所全体での連携に取り組んでいる。ホームでも市外で開催さなあた行事に協力するため、市のマスコットキャラクターを借りる際には、ホームも協力する取り組みが行われている。	ホームでも新たな行政機関との連携が始められている。段階的に関係機関との交流が行われていることもあるため、今後の継続した協力関係づくりに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	対象となる具体的な行為を理解している。身体拘束委員会を開催している。	ホームのフロアーの出入り口には施錠を行っておらず、エレベーターも利用者が動かすことができるため、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、特養と連携しながら委員会を通じた検討会議や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関連する研修に積極的に参加するようにしている。常に管理者と職員間でコミュニケーションを取り、ケアの内容を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連する研修に積極的に参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結の際には、不明な点の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を行っている。家族とのコミュニケーションを良好に保つよう努めている。各ユニットに運営推進会議の資料が置いてあり、不参加な方には面会時などに確認してもらっている。	家族からの要望等については、内容にも合わせてホーム管理者の他にも、併設事業所の施設長や相談員による対応も可能な体制がとられている。また、運営法人の機関紙を定期的なホーム便りとして発送している。	現状、家族を交えた交流会の取り組みや独自の便りの作成が行われていない。ホームでは段階的に新たな取り組みを始めていることもあり、家族との関係づくりについても、今後の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主任会議、委員会、ユニットミーティングで職員の意見を吸い上げている。	日常的に独自の「案件ノート」も活用しながら、職員間で意見交換を行う機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、併設の特養のリーダー等も交えた会議が行われており、職員からの意見等の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を行っている。業務の一環として各種研修参加をしている。希望する日に休みを取れる様配慮して、勤務シフトを作成している。年2回自己評価を行い、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の各種研修への参加を後援している。ユニットリーダーのほか毎日その日のリーダーを設定し、全職員が全体を把握できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内にグループホームが3施設あるため、情報の共有をしてサービス向上に繋げていけるように交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ゆっくりと会話をする時間を作り、不安な事や要望などを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、面談・自宅への訪問などに時間をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	老健・デイサービスなどのサービスについて説明し、グループホームが最善策であるか、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居前の生活パターンを把握し、家事援助や本人の趣味を生かした生活が無理なくできるよう、環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族より外出の申し出があれば、スムーズに出かけられるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出、かかりつけ医へ受診の付添や、知人との交流など継続できるよう支援している。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問している方や併設の特養にホームの利用者の身内が生活している等、関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族との外出の機会も得られており、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う入居者同士の会話が生まれやすい環境作りを行っている。何か問題があれば、その都度席替えなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状態が悪化し入院した方も、居室を期間限定ではあるが確保して、終末期をグループホームで迎えたいと希望があり。再入居している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には、出来る限り本人に希望・意向を聞いている。又、内容を確認して了解を得るようにしている。	ホームでは昨年からの利用者を担当する取り組みを始めており、一人ひとりを把握する取り組みが徐々に浸透している段階である。独自の「案件ノート」も活用しながら、利用者の意向等を職員間で共有し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前・入居後と、その都度本人及び家族に聞き取り適宜把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家事援助・散歩・レクリエーションなど日常生活を行ってもらいながら、状態を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要時、家族・介護主任・看護師・荘長等関係者を集め話し合い、主治医の意見を基にそれぞれの意見を反映し、介護計画を作成している。	介護計画を定期的に見直すようにしているが、ユニットにより実施方法が異なっており、職員間で介護計画に関する検討を行っている段階でもある。また、日常の様子を電子データに残しながら、職員間で情報を共有する取り組みが行われている。	利用者の状況等に関する日常的なチェックは行われているが、定期的なモニタリングの取り組みが充分ではない現状がある。定期的なモニタリングに合わせた介護計画の見直しにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録を基に、問題となるところをピックアップしカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入浴・起床時間など本人の希望時間に対応している。家族の受診が困難な場合は、職員が適宜受診に付き添う等相談に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の活動や行事に積極的に参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みのあるかかりつけ医へ受診している。また各々かかりつけ医とは、詳細な情報交換ができるよう努めている。	ホームでは、多くの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続している。受診は家族による受診を基本としているが、必要に合わせたホームでの受診支援も行われている。また、ホーム及び特養の看護職員による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個々の入居者が適切な受診や看護を受けられる様、介護職員から看護師に情報を提供し、アドバイスを受けている。受診時は受診報告書を看護師が作成し、医師より返答を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換・相談に努めている。その際、家族の希望を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時・家族の考えの変化・入居者の状態の変化があった際、重度化した時の家族の希望を確認している。施設でできることを十分に説明している。	支援に限界があることを家族にも伝え、看取りを見据えた支援は行われていない方針等の話し合いが行われている。利用者の身体状態等にも合わせた関連の特養への移行支援等も含め、利用者、家族が安心できるような支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルを作成し職員に周知させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行っている。運営推進会議でも、災害時の地域との相互支援について話し合っている。	年2回の避難訓練の際には、併設の特養とも連携しながら実施しており、夜間を想定した対応や事業所間で連携した通報訓練も実施している。また、水害が想定される地域でもあり、事業所全体での取り組みや備蓄品の確保等が行われている。	今年度、台風による被害で長時間にわたる停電を経験したことで、災害に関する新たな気付きにもつながっている。今回の経験が今後の災害対策に活かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	特にスピーチロックに注意し、生活空間内で大声を出さないよう心掛けている。	理念に掲げられている具体的な項目を職員間で確認しながら、利用者への対応を意識するように取り組んでいる。また、日常的な「案件ノート」も活用しながら、利用者に関する対応等を通じて、職員への注意喚起等につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	小さなことでも、本人に選択してもらうようにしている。日々コミュニケーションを取り傾聴することにより、ニーズを引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れも、その日、その日の職員と入居者で考えて、できるだけ入居者の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々着る服をできる限り本人が選択して着れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜などの下ごしらえから配膳まで、個々の能力に合わせて参加してもらえるよう努めている。	ホームでの食事作りを見直しており、メニューを職員間で考え、利用者と買い物に出かける取り組みを始めている。季節の食材や利用者の希望にも対応しながら、利用者と一緒に調理が行われている。食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量をその都度確認している。水分が摂れない入居者の方には、その方の嗜好に合ったもの、ゼリーなどを提供している。服薬・排便コントロール・食事制限なども把握し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア・歯磨きの援助を行っている。希望者は、月1回の歯科往診や、週1回の歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握した声掛け・誘導を行っている。できる限り本人が自立でき、綿パンツが使用できるよう努めている。随時、オムツ類の種類・サイズを調整・検討している。	利用者全員の排泄記録を残しており、日常的に職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。また、トイレでの排泄を継続することができるように、職員間で排泄方法を検討する取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、手作りR-1ヨーグルトを提供している。起床時、冷たい牛乳を必要に応じて提供している。服薬に頼る前に、運動・水分量の増加を促すようにしている。イオンゼリーも作成し、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	できる限り本人の希望に沿った時間に入れるように、個々に沿った支援をしている。	ホームでは、利用者が週2回以上の入浴ができるように支援が行われており、利用者の中には毎日のように入浴している方もいる。また、重度の方に合わせた機械浴での入浴も行われている。また、季節に合わせた入浴や足浴等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は体を動かせる場を作り、夜間は安眠できるよう努めている。起床・就寝時間は、各々の生活リズムに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋及び薬のデータをファイルに挟み、その都度最新の物が見られるようにしている。副作用による変化がないか、様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の得意分野で家事援助など手伝ってもらおう。嗜好品の把握・趣味活動も行える環境作りを整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日、職員付き添いで食材の買い物支援を行っている。また、日々行きたい場所など把握し、叶えて行けるようにしている。	ホームでは、日常的に外出の機会が増えるような取り組みが始められており、新たに日常の食材を職員と買い物に出かける機会がつけられている。運営法人の関連事業所の行事への参加や季節にも合わせた外出の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布の持参も認めている。小遣いの管理も行っており、外出時には小遣いを持って行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を家族に書いている。電話など、入居者・家族など希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者間の相関関係を考慮した座席配置をしている。	事業所の建物内には、多くの方が過ごすことができる共用空間があり、利用者がホームのリビング以外の場所で過ごすことが可能である。また、リビング内も広めの空間であり、テレビを2台置く等、利用者が過ごしやすくする配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う仲間で過ごせるよう留意している。1人になりたい方は、部屋で過ごすことなど勧めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具・好みの服を持ってきてもらう。	居室内の収納スペースが大きいことで、利用者の中にはトイレのスペースとして活用する等、利用者の意向にも配慮した生活環境がつけられている。また、家族との写真や趣味の物を飾る方やシンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できる限り行動を束縛せず、建物内部を自由に動けるよう見守り支援している。		